

延長増幅器
品番 EA8134
取扱説明書

DXアンテナ株式会社

このたびは、DXアンテナ製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この製品を正しく理解し、ご使用いただくために、取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、いつでも見られるところに保存してください。

◎安全上のご注意



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は警告または注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は注意して行なってください）が描かれています。



警告

この内容が無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

●テレビ受信関連工事には技術と経験が必要ですので、お買い上げの販売店もしくは工事店にご相談ください。



●表示された電源電圧（交流20～40ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災や感電の原因となります。



●この製品の本体を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6ミリメートル以上の軟銅線で接地してください。接地しないと避雷や保護接地の効果がなくなり、火災や故障の原因となります。



●高所に設置する場合は、足場と安全を確保して行なってください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



●風の強い日や、雨、雪、雷などの天候の悪い日は、危険ですから設置工事や点検をしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。



●この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、途中には通電形機器以外は絶対に挿入しないでください。通電形機器を挿入する場合は、通電端子をよく確かめてお使いください。もし、非通電形機器を挿入しますと、回路やケーブルがショートして、火災や感電の原因となります。



●この製品に接続する同軸ケーブルには電流が流れることがありますので、製品と接栓の接続および接栓と同軸ケーブルの接続で、心線と外部導体がショートしないようにしてください。火災や感電の原因となります。



- この製品に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。雨天での設置工事や点検・調整で蓋を開けないでください。火災や感電の原因となります。



- この製品を設置・点検・調整した後は、正しく蓋およびモニターキャップを閉めてください。水が入ったりして、火災や感電の原因となります。



- 万一内部に水が入った場合は、まずこの製品に供給している電源を切り、水をよく拭き取ってから、電源を供給してください。そのまま使用すると火災や感電の原因となります。



- この製品を分解したりしないでください。また、お客様による修理や改造はしないでください。感電やけがの原因となりますし、性能維持ができなくなり、故障の原因となります。



- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。すぐにこの製品に供給している電源を切り、煙がでなくなるのを確認してCATV施設の管理者もしくは工事店に修理をご依頼ください。



- 取り付けネジやボルトや接栓は、指定している力(トルク)で締め付け、堅固に取り付け固定してください。落下や破損して、感電やけがや故障の原因となります。



- この製品や部品および工具類を高い所から落とさないでください。けがの原因となります。



- この製品のヒューズは同一規格の容量および形状のものをご使用ください。また交換の際は、電源ユニットのコネクターをはずすなど、必ず電源が供給されていない状態で行なってください。火災や感電の原因となります。



- 雷が鳴り出したら、この製品にはふれないでください。感電の原因となります。



目 次

1. 機 器 概 要	2
2. 特 長	2
3. 使用上の注意	2
4. 各 部 の 名 称	
(1) 本体部	3
(2) 増幅部ユニット	4
(3) AVRユニット(AVR-521)	5
5. 操 作 説 明	
(1) 各部の取り付け、取りはずし	6~7
(2) ケーブルの接続	8~9
(3) 通 電	9~10
(4) 下り信号の調整	11~12
6. 付 属 品	13
7. 規格とブロックダイアグラム	
(1) 規 格	14
(2) ブロックダイアグラム	15
8. 外 観 図	16
9. 備 考	17~18

1. 機 器 概 要

この製品は、CATVシステムの伝送ラインにおいて、VHF11波（アナログ）+MID 9波（地上デジタル）+BS-IF 8波（デジタル）+PL 1波を伝送することが可能な250MHz帯CATVシステム改修型770MHz帯延長増幅器です。

2. 特 長

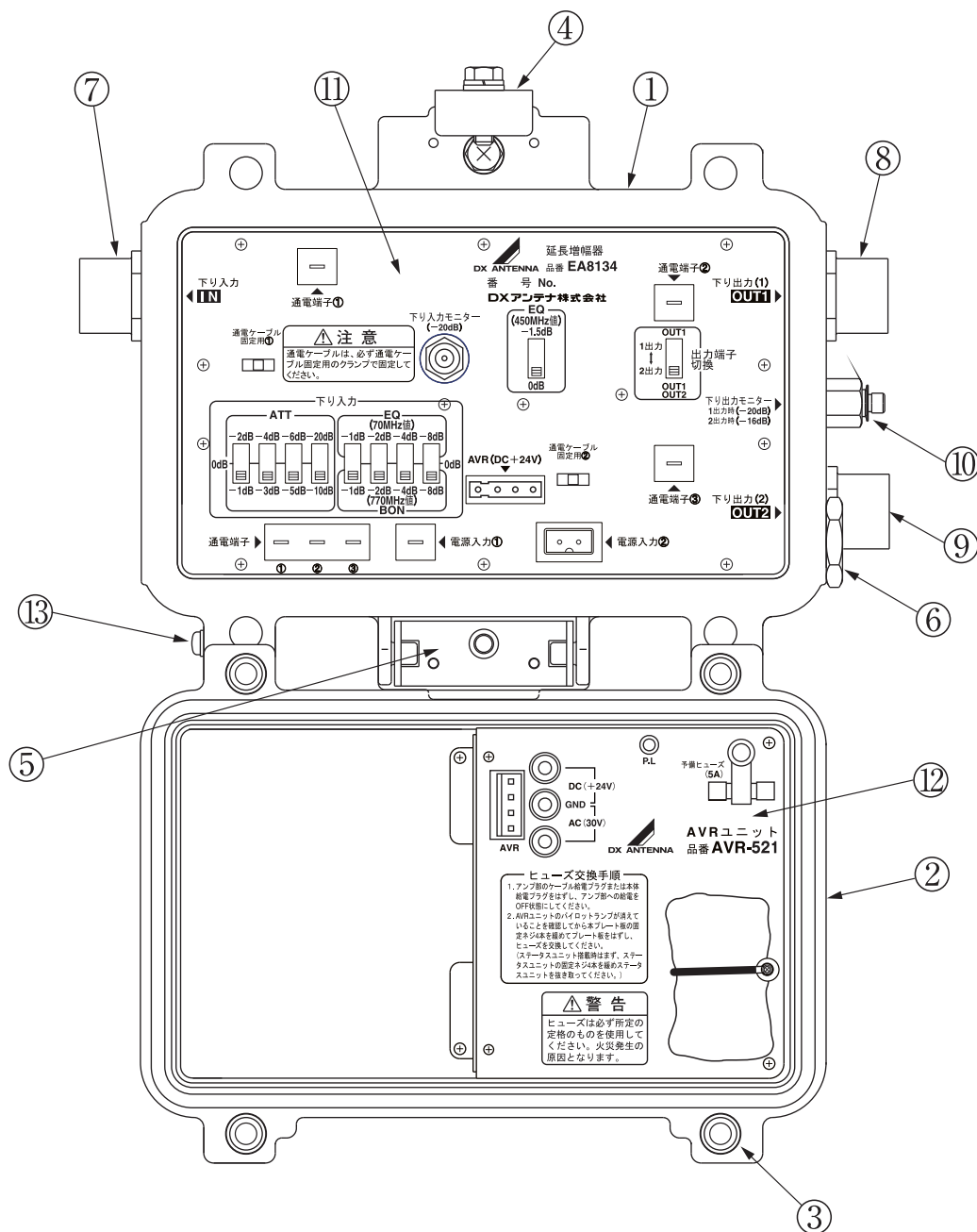
- ・小形軽量のアルミダイカストケースを採用しており、放熱効果に優れています。
- ・シリコンパッキンの採用により、防水効果は確実です。
- ・電磁シールドの採用により、電波漏洩対策も万全です。
- ・通電ケーブルの操作で、本体給電、重畳給電それぞれに対応します。
- ・通電容量5Aまで対応します。
- ・アンプ運用時にダイカストケース外側からパイロットランプの確認ができます。

3. 使用上の注意

1. AC入力電圧が規定値であることを、AVRユニットの電圧チェック端子においてテスターで確認してください。
2. 各端子の通電電流容量は最大5Aとなっていますから、必ずこの値以下で使用してください。
※電源入力端子（本体給電端子、コネクター）はAC40V・5A以下です。
3. 増幅器本体左側面下のアース端子を引っ張り強さ0.39kN以上の金属線または直径1.6mm以上の軟銅線により大地に接続してください。
4. 脱落防止のため、フタ締付ボルトは引っぱらないでください。
5. フタを閉める時は、防水パッキンが曲がっていないことを確かめ、フタ締付ボルトで締め付けてください。また、取り付けや調整の際、雨水や湿気が増幅器内部に入った時は、水分を乾いた布でよく拭き取ってからフタを閉じてください。
※拭き取る時は溶剤等を使用しないでください。
※防水パッキンにはシリコングリス等を一切塗布しないでください。
※フタ締付トルクは $4\pm 0.5\text{N}\cdot\text{m}$ で均一に締め付けてください。
6. 使用しない電源挿入口は、必ずシリコングリスを塗布したM18ネジフタでしっかりふさいでおいてください。M18ネジフタの締付トルクは $12\pm 1\text{N}\cdot\text{m}$ で締め付けてください。
7. 同軸給電をする場合は、別売りの同軸給電用電源アダプターPY-111をご使用ください。締付トルクは $12\pm 1\text{N}\cdot\text{m}$ で締め付けてください。
8. フィッティングをF形に変換する場合は、別売りのFRアダプター（フィッティング-F形座変換接栓FR-2）をご使用ください。
9. フィッティング接栓の締付トルクは $12\pm 1\text{N}\cdot\text{m}$ で締め付けてください。
10. デジタルTV放送信号は、アナログTV放送信号に比べて-10dBの運用レベルになっていますのでご注意ください。

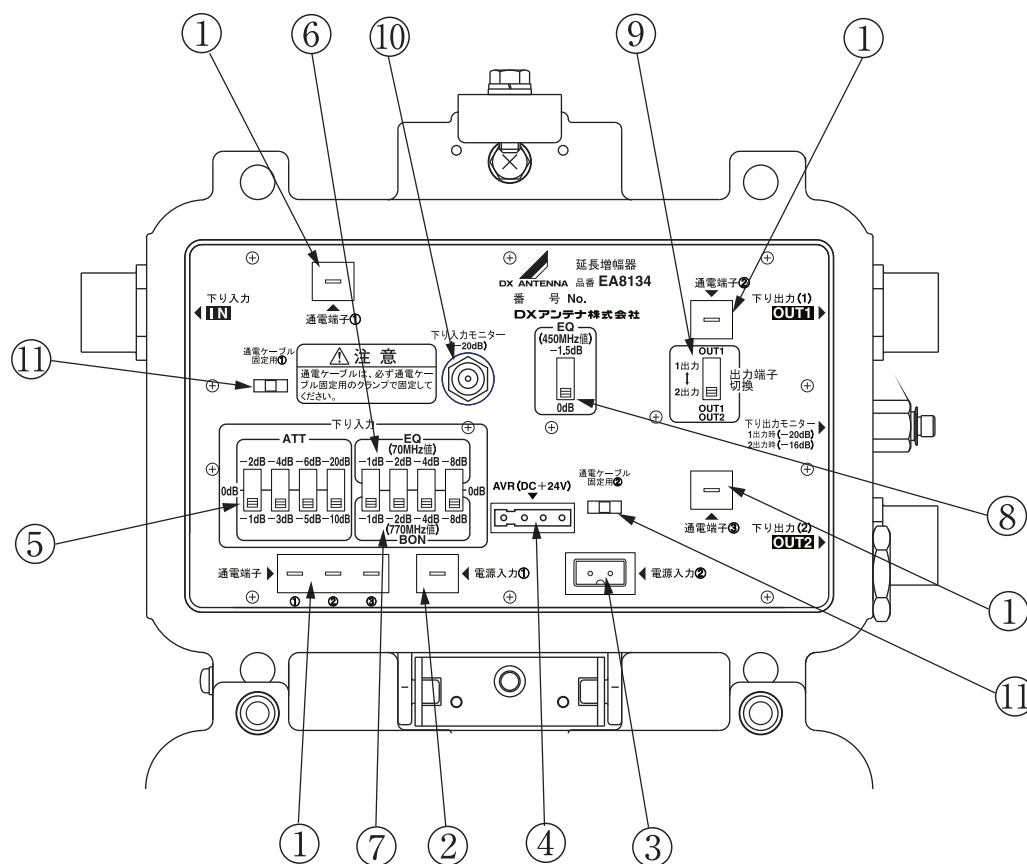
4. 各部の名称

(1) 本体部



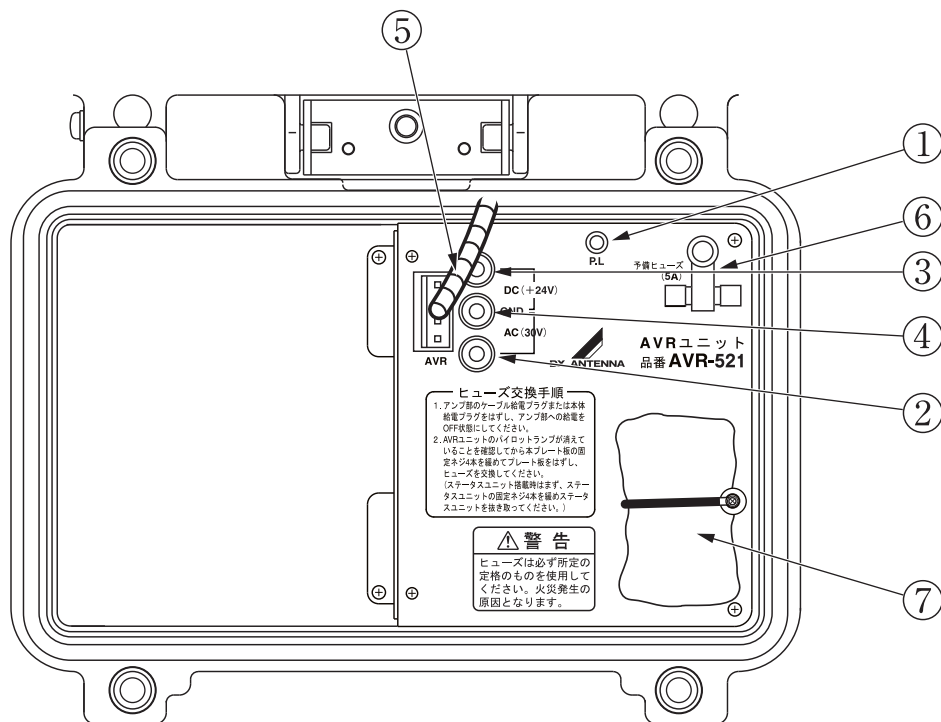
- | | |
|----------------|---------------------|
| ① ダイカストケース本体 | ⑧ 下り出力端子 (1) |
| ② ダイカストケースフタ | ⑨ 下り出力端子 (2) |
| ③ フタ固定ボルト (4本) | ⑩ 下り出力モニター端子 |
| ④ メッセージワイヤ固定金具 | ⑪ 増幅部ユニット |
| ⑤ ヒンジ金具 | ⑫ AVRユニット (AVR-521) |
| ⑥ 電源挿入口 | ⑬ アース端子 |
| ⑦ 下り入力端子 | |

(2) 増幅部ユニット



- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 通電端子 (3か所) ② 電源入力端子 (1) (本体給電端子) ③ 電源入力端子 (2) (本体給電コネクター) ④ AVRコネクター ⑤ 下り入力ATTスイッチ
0dB～-32dB加算式 ⑥ 下り入力EQスイッチ (70MHz値)
-1dB～-15dB加算式 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 下り入力BONスイッチ (770MHz値)
-1dB～-15dB加算式 ⑧ 下りEQスイッチ (モップアップ：450MHz値)
0dB、-1.5dB切替式 ⑨ 下出力端子切替スイッチ
1出力⇔2出力 ⑩ 下り入力モニター端子 ⑪ ケーブル固定用クランプ (2か所) |
|--|--|

(3) AVRユニット (AVR-521)



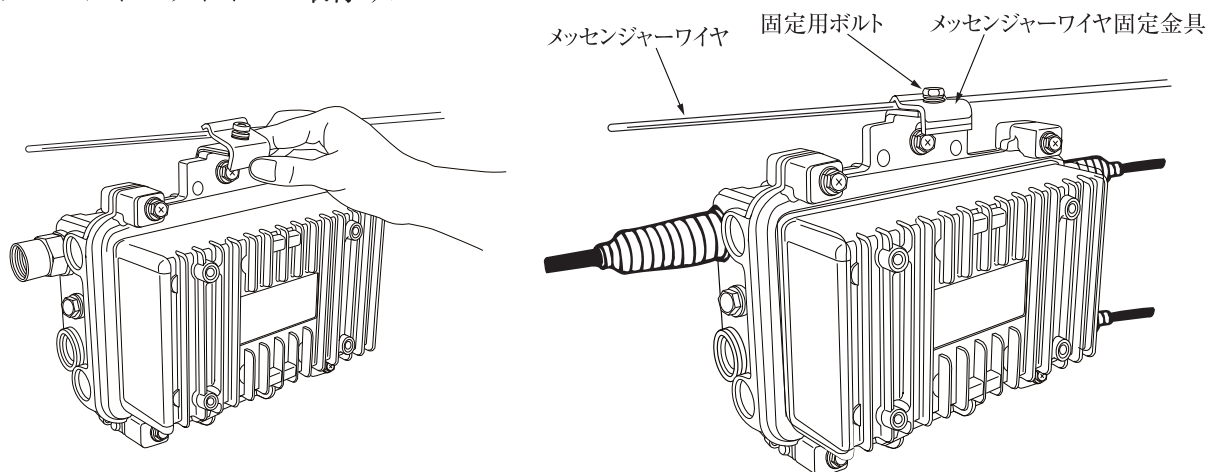
- | | |
|--------------------------|---------------|
| ① パイロットランプ | ⑤ AVRケーブル |
| ② AC電圧チェック端子 | ⑥ 予備ヒューズ (5A) |
| ③ DC電圧チェック端子 | ⑦ シリカゲル |
| ④ 電圧チェック用GND端子 (AC、DC共通) | |

5. 操作説明

(1) 各部の取り付け、取りはずし

1-1) 本体の取付方法

<メッセンジャーワイヤへの取付け>



メッセンジャーワイヤは $\phi 5 \sim \phi 11\text{mm}$ ($20 \sim 95\text{mm}^2$) のワイヤを使用してください。

※締付トルクは、 $4 \pm 0.5 \cdot \text{m}$ でしっかりと取り付けてください。

※取りはずしは、製品が落下しないように注意のうえ、固定用ボルトを緩めてから取りはずしてください。

※壁面・ポールへの取り付けは、専用金具（壁面用：PY-101、マスト用：PY-102）が必要です。別途、お求めください。

1-2) フタの開閉

※雨などにより、機器内部がぬれると機器の故障の原因となることがあります。雨や雪など天候の悪いときには、フタの開閉などの作業は、行わないでください。

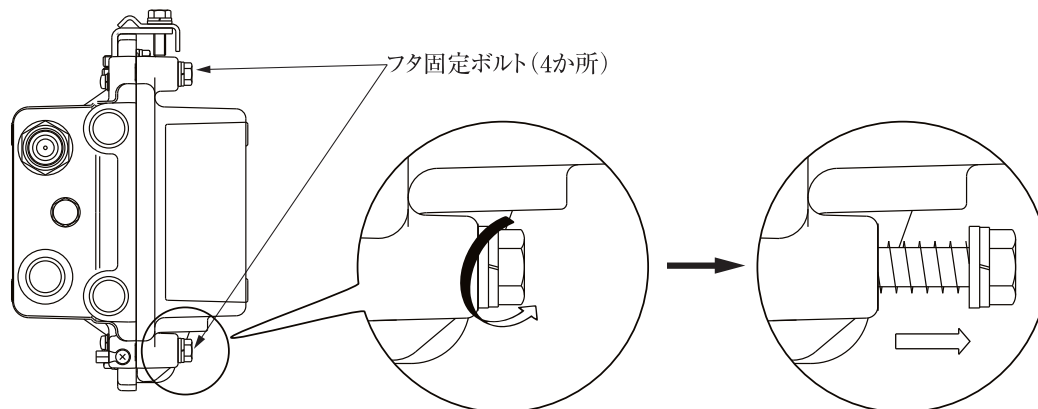
また、万一機器内部に水や湿気が入ったときは、水分をよく拭き取ってからフタを閉じてください。

※本器には、機器内部の乾燥のためにダイカストケースフタ部にシリカゲルを付けています。青色のシリカゲルの色がうすくなったり、ピンク色に変色した場合、シリカゲルの吸湿効果が低下していますので交換してください。

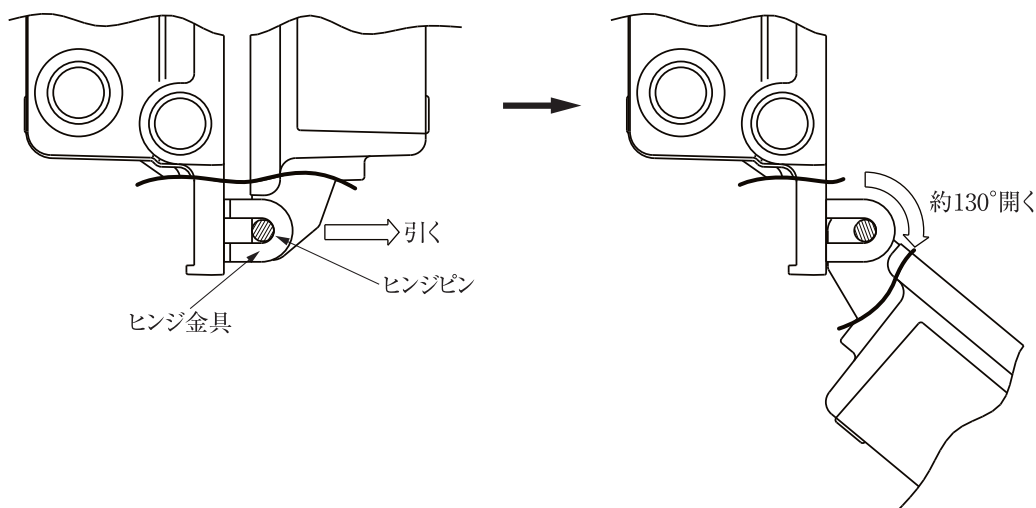
<フタを開ける>

①上下4本のフタ固定ボルト(M6)を徐々に緩めます。

※フタ固定ボルトはスプリングにより自動的に浮き上がりますので、強く引っ張らないでください。固定ボルトを引っ張ると、ボルト抜け防止のOリングがはずれ、ボルト脱落の原因となります。



②ヒンジピンがヒンジ金具の先端に当たるまでダイカストケースフタを手前に引き出し、ゆっくりと開けてください。



<フタを閉じる>

①本体とフタとの合わせ面や防水パッキンの汚れや水分を乾いた布できれいに拭き取ってください。

※拭き取る時は溶剤等を使用しないでください。

②フタを本体に押し当て、上下4本とも手で軽く締め付けてください。

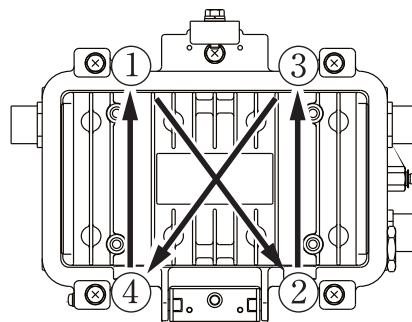
③その後に図の①～④の順に数回にわけて、

$4 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ で均一に締め付けてください。

※締め付けが不十分であったり、均一に締まっていない場合、防水性が保たれない場合がありますので、注意してください。

※防水パッキンには、シリコングリスなどを塗布しないでください。

※フタを閉じるときは、AVRユニット等のケーブルやシリカゲルの袋などはさみ込まないように注意してください。



(2) ケーブルの接続

2-1) 入出力同軸ケーブル

①入出力端子には入出力ケーブルに合ったフィッティング接栓（ミリネジタイプ）を使用し同軸ケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

※ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を薄く塗布してください。

②接続の終わった接栓には自己融着テープ、および、ビニルテープで防水処理を施してください。

※入出力同軸ケーブルに電源を重畳する場合は、JIS規格ケーブル（JIS C3503、8C以上のパイプケーブル）をご使用ください。また、各入出力端子の通電容量は最大5Aです。入出力端子への通電は、この値以下でご使用ください。 ※電源入力端子（本体給電端子、コネクター）はAC40V、5A以下です。

2-2) 電源ケーブル

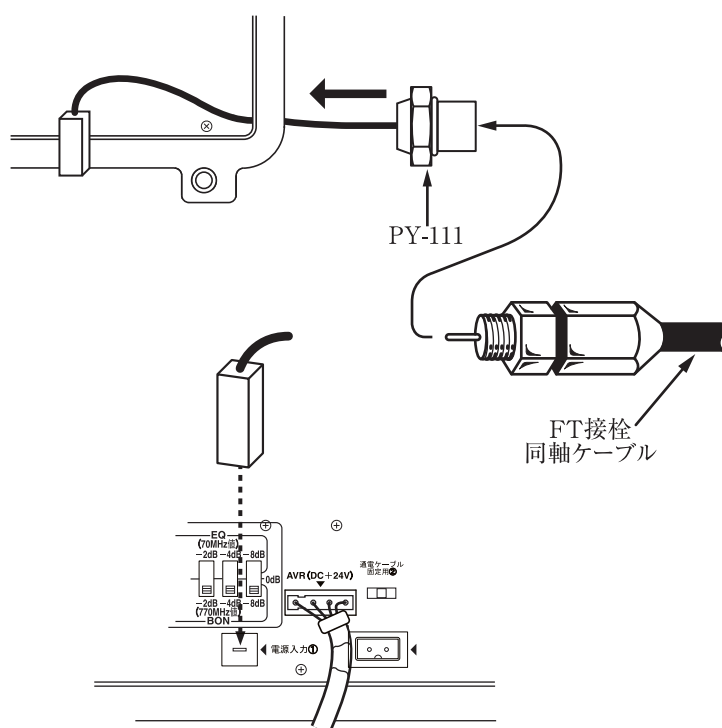
<同軸ケーブルによる本体給電>

①同軸ケーブルによる本体給電をする場合、別売りの同軸給電用電源アダプタPY-111をダイカストケース本体の電源挿入口に取り付けてください。締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。

※ダイカスト本体とのネジ部には、シリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を薄く塗布してください。（コネクター本体のOリングにはシリコンを塗布しないでください。）

②PY-111の先端のコネクターを電源入力①端子（本体給電端子）に接続してください。

③取り付けの終わったPY-111に、給電用ケーブルに合ったフィッティング接栓を使用しケーブルを接続してください。フィッティング接栓の締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。



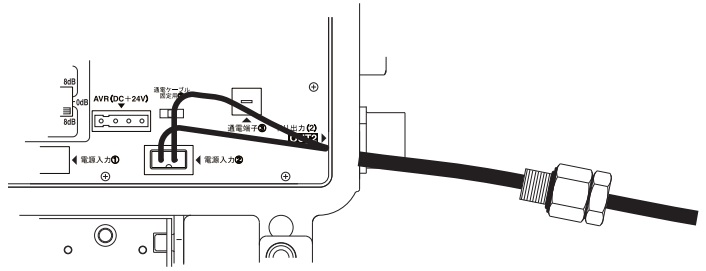
※給電用ケーブルには、JIS規格ケーブル（JIS C3503、8C以上のパイプケーブル）をご使用ください。

また、各端子の通電容量は最大5Aです。それぞれの端子への通電はこの値以下でご使用ください。

※使用しない電源挿入口にはシリコングリス（東レシリコンHVG相当品）を塗布したM18ネジフタ（端子に付属）でしっかりふさいでおいてください。ネジの締付トルクは、 $12 \pm 1 \text{ N} \cdot \text{m}$ で締めてください。シリコングリスは、ネジ部に薄く塗布し、Oリングには塗布しないでください。

<キャブタイヤケーブルによる本体給電>

- ①キャブタイヤケーブルによる本体給電をする場合、キャブタイヤケーブルの先端コネクタを電源入力②端子（本体給電コネクタ）に接続してください。



2-3) アース

この製品は正しい接続方法で確実に接地してください。正しく接地されない場合、本来の性能が保証されず、感電や故障の原因となります。

接地工事は電気事業法で定めるD種接地工事（100Ω以下）を行なってください。また、接地線は、引っ張り強さ0.39kN以上の金属線またはφ1.6mm（2mm²）以上の軟銅線を使用し、アース端子に付属の圧着端子で圧着し接続してください。アース端子（圧着端子）の取付ネジは、1±0.2N・mでしっかりとダイカストケース本体に取り付けてください。

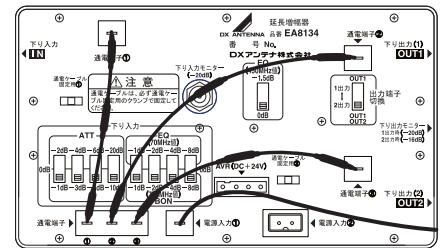
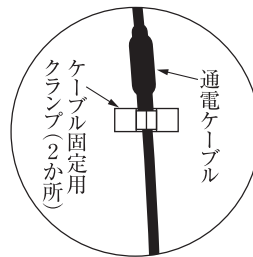
(3) 通電

3-1) 通電切換

通電ケーブルの接続によりIN、OUT1、OUT2それぞれへの通電操作が可能です。

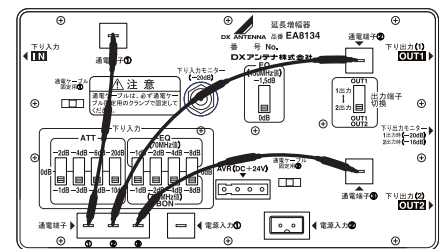
- ①本体給電時に入出力端子に通電する場合。

電源入力端子横にある通電端子①、②、③と各端子の通電端子①、②、③とをそれぞれ通電ケーブルにて接続してください。接続後、必ずケーブル固定用クランプで各ケーブルを固定してください。



- ②入力端子からケーブル重畳時に出力端子へ通電する場合。

電源入力端子横にある通電端子①、②、③と各端子の通電端子①、②、③とをそれぞれ通電ケーブルにて接続してください。接続後、必ずケーブル固定用クランプで各ケーブルを固定してください。

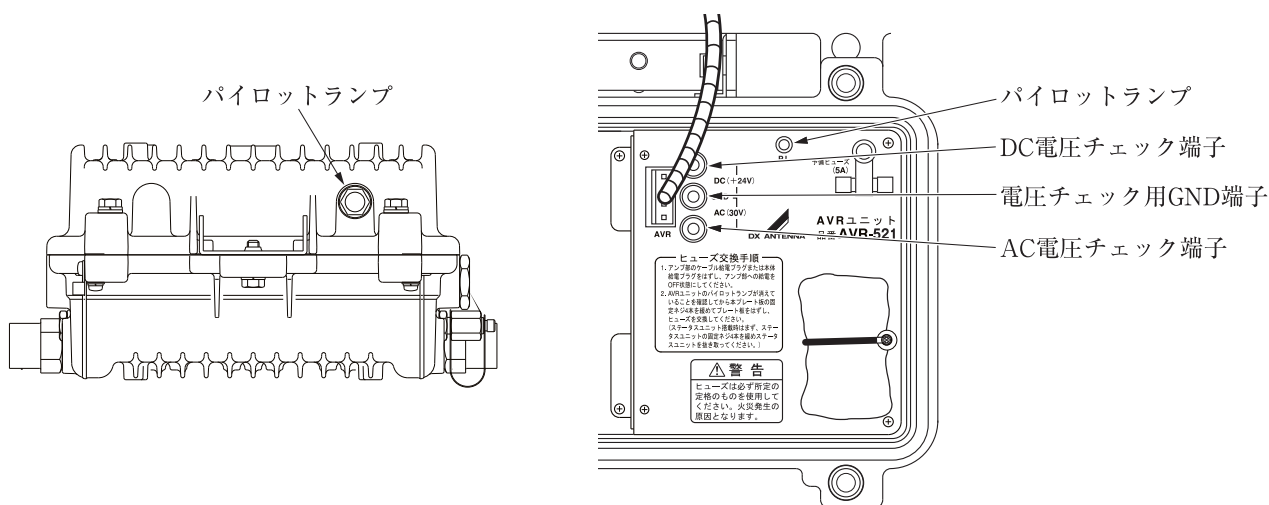


※入出力端子の通電容量はそれぞれ最大5Aです。各端子への通電は、この値以下でご使用ください。

3-2) AVRの動作

①通電され、動作しているAVRについて、以下の確認ができます。

- ・パイロットランプ…… AC電圧を受電し、DC電圧を出力している場合に点灯します。
ダイカストケース外側からも確認できます。
- ・AC電圧チェック端子 … AC入力電圧の確認ができます。
AC20～40Vであることをご確認ください。
- ・電圧チェック用GND端子…AC電圧またはDC電圧測定時のGND端子です。
- ・DC電圧チェック端子 … DC+24V出力電圧の確認ができます。 DC+24Vであることをご確認ください。



②ヒューズ (5A、ミゼットタイプ)

ヒューズが切れた場合は、原因を確かめてからAVRユニットのパネルをはずし交換してください。ヒューズ交換時は、必ず通電されていない状態 (AVRコネクターを増幅部ユニットより抜いた状態) で行ってください。

※ヒューズは、容量および形状が違うものを使用しないでください。火災、感電、故障の原因となることがあります。

※ヒューズ交換時は、必ずパイロットランプが消灯していることを確認してください。AVRコネクターを増幅部ユニットより抜いてもパイロットランプが点灯している場合は、AVR内部に充電電圧が残っている状態ですので、電源入力端子 (本体給電端子、コネクター) に接続されている通電ケーブルを抜いた後、AVRコネクターを増幅部ユニット部へ接続して充電電圧を放電してください。パイロットランプは消灯します。

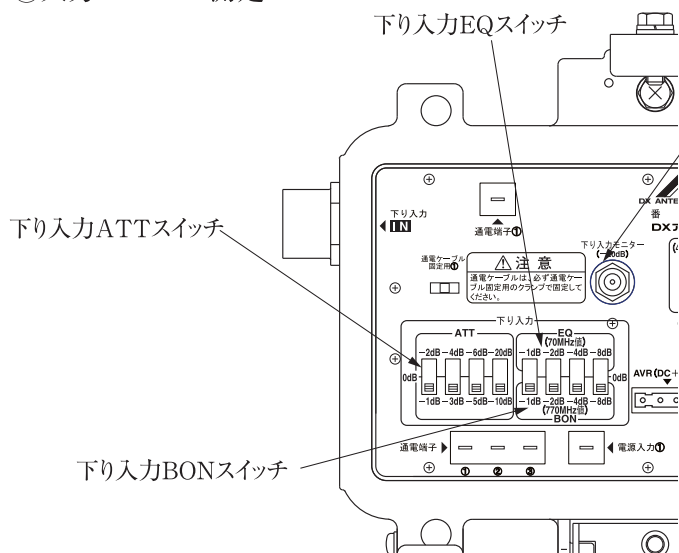
(4) 下り信号の調整

下り信号の調整は、増幅部ユニットのスイッチを使用して行います。

※スイッチ等の操作には、調整ドライバーを使用し、無理な力を加えないでください。

4-1) 入力レベルの調整

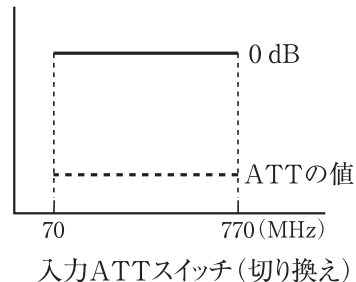
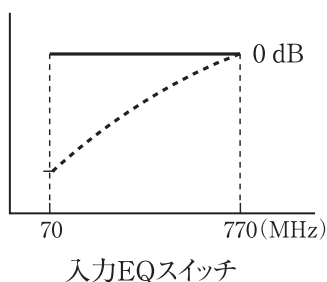
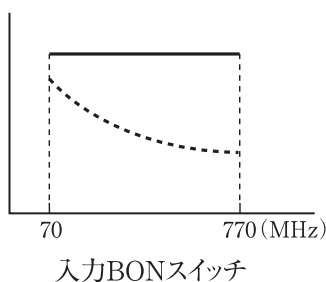
①入力レベルの測定



下り入力レベルは、増幅部ユニットの下り入力モニター端子で測定できます。この端子では**入力BON、EQ、ATT後の信号**が入力レベルより20dB低い値でモニターできます。

②入力レベルの調整

入力レベルの調整は、入力BON、EQ、ATTスイッチで行います。入力BONは、スイッチの操作で770MHzの入力レベルをケーブル等化(8Cケーブル相当)で-1dB~-15dBまで調整できます。入力EQは、スイッチの操作で70MHzの入力レベルをケーブル等化(8Cケーブル相当)で-1dB~-15dBまで調整できます。入力ATTスイッチは、切り換えにより、入力レベルをフラットに-1dB~-32dBまで調整できます。また、この3種類の調整機能は加算できます。



※標準入力レベル	(70/250/770MHz値)	(モニターレベル)
	77/77/77dBμV	(57/57/57dB μ V)

4-2) 出力レベルの調整

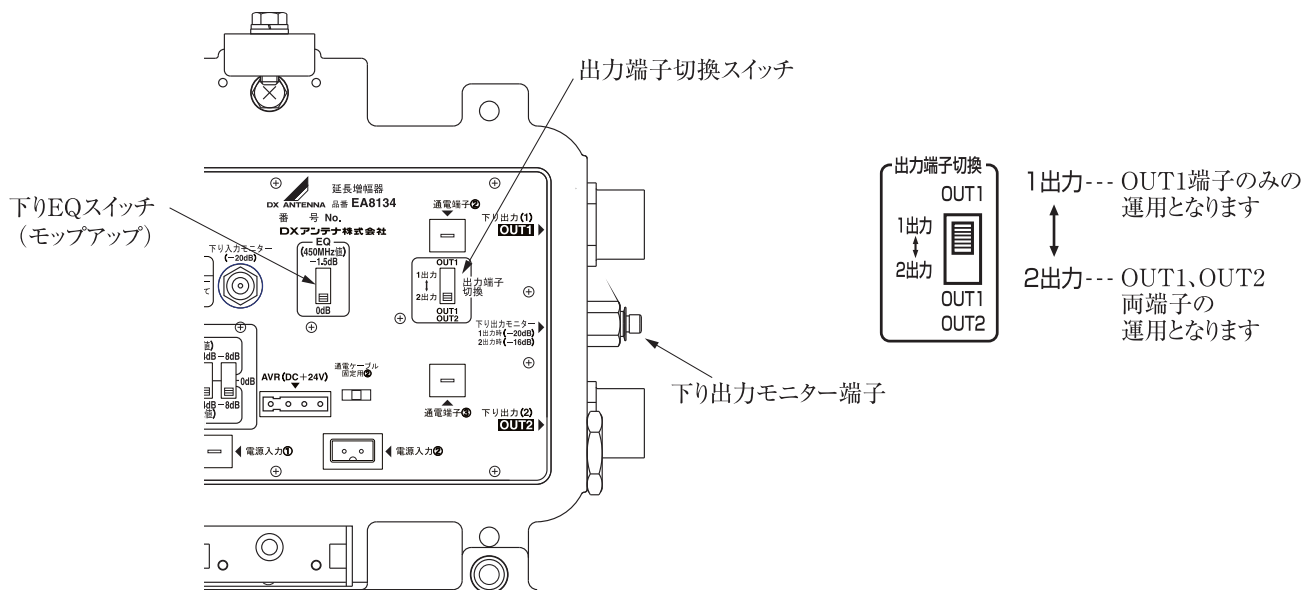
①出力端子の切り換え

出力端子切換スイッチにより、伝送システムにあった出力（1出力または2出力）を選択してください。

②出力レベルの測定

下り出力レベルは、本体右側面の下り出力モニター端子で測定できます。この端子では1出力時は20dB、2出力時は16dB出力レベルより低い値でモニターできます。

※ 1出力時、2出力時にかかわらず、出力モニター値は同じ値になります。



※標準出力レベル	(70/250/770MHz値)	(モニターレベル)
1出力時	: 108/111.4/117dB μ V	(88/91.4/97dB μ V)
2出力時	: 104/107.4/113dB μ V	(84/87.4/93dB μ V)

6. 付 属 品

予備ヒューズ（5A、ミゼットタイプ・AVRプレート板に付属）	1本
アース端子用圧着端子（アース端子に付属）	1個
M18ネジフタ（電源挿入口に付属）	1個
通電ケーブル	3本

7. 規格とブロックダイアグラム

(1) 規 格

項 目 (単位)	性 能	
	EA	
	1出力	2出力
周 波 数 帯 域 (MHz)	70~770	
最 大 伝 送 波 数 (波)	VHF11 (アナログ)+MDI 9 (地上デジタル)+BS-IF 8 (デジタル)+PL 1 (注1)	
標 準 入 力 (dB μ V)	70MHz	77.0
	250MHz	77.0
	770MHz	77.0
標 準 出 力 (dB μ V)	70MHz	108.0
	250MHz	111.4
	770MHz	117.0
標 準 利 得 (dB)	70MHz	31.0
	250MHz	34.4
	770MHz	40.0
帯 域 内 周 波 数 特 性 (dB)	± 0.75 以内	
利 得 安 定 度 (dB)	± 0.75 以内	
雑 音 指 数 (dB)	9以下 (注2)	
ハ ム 変 調 (dB)	-70以下	
C S O (dB)	-67以下	
C T B (dB)	-69以下	
V S W R	1.5以下	
電 源 電 圧 (V)	AC20~40	
消 費 電 力 (VA)	約14 (AC30V時)	
不 要 放 射 (dB μ V/m)	34以下 (IEC法による)	
耐 雷 性 (kV)	± 24 (1.2/50 μ s)	
使 用 温 度 範 围 (°C)	-10~+40	
外 形 寸 法 (mm)	195(H) \times 249(W) \times 121(D)	
質 量 (kg)	約2.8	

備考

1出力・2出力切換式

入力BON (-1、-2、-4、-8dB スイッチ加算式)

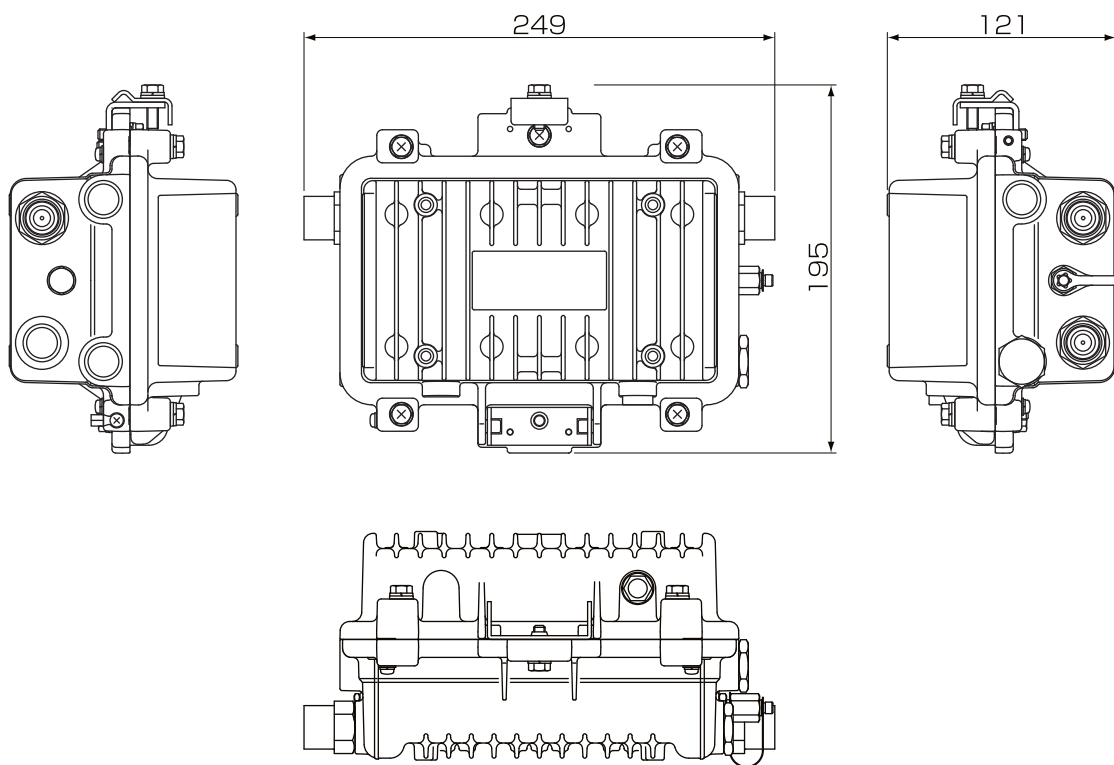
入力EQ (-1、-2、-4、-8dB スイッチ加算式)

入力ATT (-1、-2、-3、-4、-5、-6、-10、-20dB スイッチ加算式)

注1) デジタルはアナログから-10dB運用

注2) 雑音指数は入力BON・入力EQ・入力ATT 0dB時

8. 外 観 図



(単位：mm)

EA8134

9. 備 考

BONスイッチ減衰量 (dB)

※BONスイッチ表示dBは770MHz値

周波数 (MHz)	1dB	2dB	3dB	4dB	5dB	6dB	7dB	8dB	9dB	10dB
70	0.27	0.55	0.82	1.09	1.37	1.64	1.92	2.19	2.46	2.74
100	0.34	0.68	1.02	1.37	1.71	2.05	2.39	2.73	3.07	3.42
150	0.42	0.84	1.26	1.68	2.10	2.52	2.94	3.35	3.77	4.19
200	0.49	0.98	1.46	1.95	2.44	2.93	3.42	3.91	4.39	4.88
250	0.54	1.09	1.63	2.18	2.72	3.27	3.81	4.35	4.90	5.44
300	0.60	1.21	1.81	2.42	3.02	3.63	4.23	4.84	5.44	6.05
350	0.65	1.31	1.96	2.61	3.27	3.92	4.57	5.23	5.88	6.53
400	0.70	1.40	2.11	2.81	3.51	4.21	4.92	5.62	6.32	7.02
450	0.75	1.49	2.24	2.99	3.73	4.48	5.22	5.97	6.72	7.46
500	0.79	1.59	2.38	3.17	3.97	4.76	5.56	6.35	7.14	7.94
550	0.84	1.68	2.51	3.35	4.19	5.03	5.87	6.70	7.54	8.38
600	0.88	1.75	2.63	3.50	4.38	5.25	6.13	7.00	7.88	8.75
650	0.91	1.83	2.74	3.66	4.57	5.49	6.40	7.32	8.23	9.15
700	0.95	1.90	2.84	3.79	4.74	5.69	6.64	7.58	8.53	9.48
750	0.99	1.97	2.96	3.95	4.94	5.92	6.91	7.90	8.89	9.87
770	1.00	2.00	3.00	4.00	5.00	6.00	7.00	8.00	9.00	10.00

周波数 (MHz)	11dB	12dB	13dB	14dB	15dB
70	3.01	3.28	3.56	3.83	4.11
100	3.76	4.10	4.44	4.78	5.12
150	4.61	5.03	5.45	5.87	6.29
200	5.37	5.86	6.35	6.83	7.32
250	5.99	6.53	7.08	7.62	8.16
300	6.65	7.26	7.86	8.47	9.07
350	7.19	7.84	8.49	9.15	9.80
400	7.73	8.43	9.13	9.83	10.54
450	8.21	8.96	9.70	10.45	11.20
500	8.73	9.52	10.32	11.11	11.91
550	9.22	10.06	10.90	11.73	12.57
600	9.63	10.50	11.38	12.26	13.13
650	10.06	10.98	11.89	12.81	13.72
700	10.43	11.37	12.32	13.27	14.22
750	10.86	11.85	12.84	13.82	14.81
770	11.00	12.00	13.00	14.00	15.00

EQスイッチ減衰量 (dB)

※EQスイッチ表示dBは70MHz値

周波数 (MHz)	1dB	2dB	3dB	4dB	5dB	6dB	7dB	8dB	9dB	10dB
70	1.09	1.82	3.27	4.00	4.72	6.18	6.90	8.35	9.08	9.81
100	0.99	1.65	2.96	3.62	4.28	5.60	6.26	7.57	8.23	8.89
150	0.87	1.45	2.61	3.20	3.78	4.94	5.52	6.68	7.26	7.84
200	0.77	1.28	2.30	2.82	3.33	4.35	4.86	5.89	6.40	6.91
250	0.68	1.14	2.05	2.51	2.96	3.87	4.33	5.24	5.70	6.15
300	0.59	0.99	1.78	2.17	2.57	3.36	3.76	4.55	4.94	5.34
350	0.52	0.87	1.56	1.91	2.25	2.95	3.29	3.99	4.33	4.68
400	0.45	0.74	1.34	1.64	1.93	2.53	2.83	3.42	3.72	4.02
450	0.38	0.63	1.14	1.40	1.65	2.16	2.41	2.92	3.17	3.43
500	0.31	0.52	0.93	1.14	1.34	1.75	1.96	2.37	2.58	2.79
550	0.24	0.41	0.73	0.89	1.05	1.38	1.54	1.86	2.02	2.19
600	0.19	0.31	0.56	0.69	0.81	1.06	1.18	1.43	1.56	1.68
650	0.13	0.21	0.38	0.47	0.55	0.72	0.81	0.98	1.06	1.15
700	0.08	0.13	0.23	0.29	0.34	0.44	0.50	0.60	0.65	0.70
750	0.02	0.03	0.06	0.07	0.08	0.11	0.12	0.15	0.16	0.17
770	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

周波数 (MHz)	11dB	12dB	13dB	14dB	15dB
70	11.26	11.99	13.44	14.16	14.89
100	10.21	10.87	12.18	12.84	13.50
150	9.00	9.58	10.74	11.32	11.91
200	7.93	8.45	9.47	9.98	10.49
250	7.07	7.52	8.43	8.89	9.34
300	6.13	6.52	7.31	7.71	8.10
350	5.38	5.72	6.42	6.76	7.11
400	4.61	4.91	5.51	5.80	6.10
450	3.93	4.19	4.69	4.95	5.20
500	3.20	3.40	3.82	4.02	4.23
550	2.51	2.67	3.00	3.16	3.32
600	1.93	2.06	2.31	2.43	2.56
650	1.32	1.40	1.57	1.66	1.74
700	0.81	0.86	0.96	1.02	1.07
750	0.20	0.21	0.23	0.25	0.26
770	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

・札幌支店 TEL.(011)822-1251(代) ・宇都宮営業所 TEL.(028)659-1100(代) ・金沢支店 TEL.(076)261-9988(代) ・高松営業所 TEL.(087)868-1222(代)
 ・旭川出張所 TEL.(0166)37-5830(代) ・新潟営業所 TEL.(025)276-2166(代) ・富山営業所 TEL.(076)422-7878(代) ・松山営業所 TEL.(089)925-3826(代)
 ・東北支店 TEL.(022)243-2141(代) ・茨城営業所 TEL.(029)826-5341(代) ・大阪支店 TEL.(06)6304-5651(代) ・福岡支店 TEL.(092)541-0168(代)
 ・盛岡出張所 TEL.(019)636-1581(代) ・千葉支店 TEL.(043)253-1121(代) ・堺営業所 TEL.(072)278-5311(代) ・北九州営業所 TEL.(093)922-6556(代)
 ・郡山出張所 TEL.(024)921-7131(代) ・静岡営業所 TEL.(054)281-0141(代) ・京都営業所 TEL.(075)382-6141(代) ・長崎出張所 TEL.(095)842-0780(代)
 ・東京支店 TEL.(03)3526-5402(代) ・浜松営業所 TEL.(053)461-6885(代) ・神戸支店 TEL.(078)579-8550(代) ・大分営業所 TEL.(097)504-7799(代)
 ・東京東出張所 TEL.(03)5654-9881(代) ・中部支店 TEL.(052)919-6531(代) ・姫路出張所 TEL.(079)283-5920(代) ・熊本営業所 TEL.(096)325-0711(代)
 ・多摩営業所 TEL.(042)572-4911(代) ・松本営業所 TEL.(0263)27-7801(代) ・広島支店 TEL.(082)237-5331(代) ・南九州営業所 TEL.(099)267-8211(代)
 ・横浜支店 TEL.(045)651-2557(代) ・豊橋営業所 TEL.(0532)57-2133(代) ・岡山営業所 TEL.(086)245-2948(代) ・沖縄営業所 TEL.(098)874-6202(代)
 ・北関東支店 TEL.(048)652-3311(代) ・三重出張所 TEL.(059)226-1643(代) ・山陰出張所 TEL.(0853)24-2343(代)

(2010年5月現在)

DXアンテナ株式会社

4506

本社/〒652-0807 神戸市兵庫区浜崎通2番15号 TEL.(078)682-0001(代) 東京支社/〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19番地 秋葉原ビルディング8F TEL.(03)3526-6327(代)
 カスタマーセンター TEL.(078)682-0455 受付時間 9:30~12:00/13:00~17:00(土曜・日曜・祝日および夏季・年末年始休暇は除く)
 ホームページアドレス <http://www.dxantenna.co.jp/>

EA8134 22/22